



○「お疲れ様」

分校体育祭の様子 →

本校の学園祭が終わった時に、「お疲れ様」という言葉をあちらこちらで耳にしました。分校の体育祭は、1学期の終業式前でしたが、この時も「お疲れ様」という言葉をあちらこちらで耳にしました。



「お疲れ様」という言葉を私たちは日常よく使います。校内教職員間の公用メール文頭には、定型句的に「お疲れ様です」というのをよく使います。教頭時代に、校長先生あてメール文頭に、この「お疲れ様です。」という言葉を使っていいのか迷ったことがあります。少なくとも「ご苦労様」ではないなどは思いつつも、文頭にはどういう言葉が適切か悩んだことを覚えています。

ある新聞で、50代の編集委員のコラムに次のようなことが書かれていました。

「20代前半の記者(部下)に『今朝からがんばっておられましたか、なにかめ切が近いですか。』とエレベータで声をかけられた。なにか違和感を覚えた…。』というものです。一見なにげない、問題のない普通の会話のようにもみえます。丁寧語も使っています。でもしっくりこない…。という筆者の感想に共感しつつも、その理由がはっきり浮かんで来ませんでした。おそらくは「がんばる」という言葉だという筆者の感想から少し考えてみました。

例えば、社員が社長に「今日はがんばっていますね」というのは適切でしょうか。社長が社員に使う言葉としては違和感はありませんが、社長と社員の関係性から考えると、その逆は少し違和感があります。がんばっているのを評価するのは社長の方でないかと思うからです。この会話では、社員が社長を評価する感じにはなっていないでしょうか。編集委員と若い記者の会話も同じだと考えます。今の時代、相互評価も必要かもしれません。また、そのような微妙なニュアンスまで考えていたらコミュニケーションが活発化しないと思う人もいるかもしれません。しかし、昭和生まれの私にはやはり違和感が残るのは否めません。

「ご苦労」という言葉を、昔時代劇でよく耳にした覚えがあります。だいたい、殿様的な人が、家臣に言う言葉だったと思います。「苦労をかけましたね」という意味合いのある言葉で、頼んだ側、命令した側の言葉ということでしょうか。教頭時代のある時、校長先生が「先に帰るね」と声をかけられた時、「ご苦労様でした」と言いかけて、「お疲れ様でした」と言い直したことを覚えています。しかし、宅配便の方に荷物を届けていただいた時に、まれに「ご苦労様でした」と言うことがあります。日本語はむずかしいなと思います。

山陰中央新報のこだま欄に2回にわたって分校生徒のコラムが掲載されました。コミュニケーションの重要性の話、友人の言葉で救われた話がありました。広辞苑をひもとけば、言葉にはいろんな意味があることがわかります。すべて覚えて使い分けることはまず無理です。差別的な用語も一緒に、すべて覚えて使わないようにすることには無理があります。相手を思い気遣って言葉を選ぶことを心がけるとともに、その場にあった言葉かどうかの判断ができる感性を磨きながら、コミュニケーションを通じてお互いに元気や勇気がもらえるようにしたいものです。